

# 宮崎地本だより



発行元  
自衛隊  
宮崎地方協力本部

編集  
広報渉外室  
宮崎県宮崎市東大湊  
2丁目1-39

## 海上自衛隊艦艇続々宮崎へ



日向市 ミサイル艇しらたか

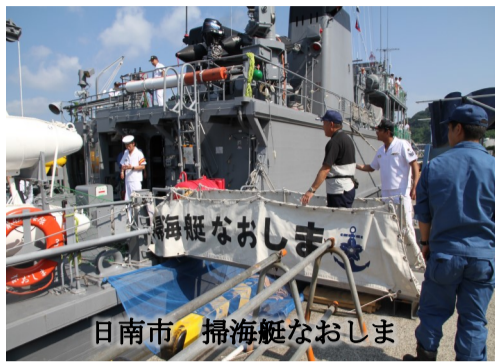


日向市 輸送艦くにさき



細島港祭参加のなおしま乗員

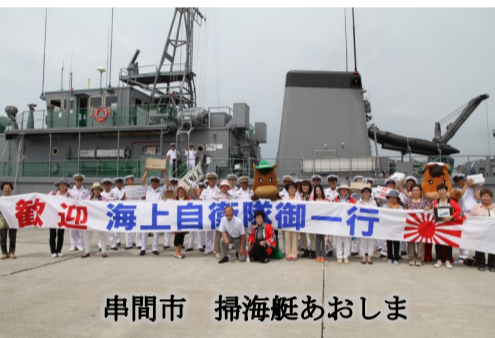
五月から八月にかけて海上自衛隊の艦艇が多数入港しました。宮崎地方協力本部では、この艦艇の入港に際し入港支援及び艦艇広報を実施しました。日向市にミサイル艇「しらたか」を皮切りに輸送艦「くにさき」、掃海艇「なおしま」、日南市と同じく掃海艇「なおしま」、宮崎市に練習艦「せとゆき」「やまゆき」、串間市に「なおしま」がそれぞれ入港し日中に艦艇広報を、掃海艇「なおしま」は、油津港及び細島港で、日が落ちた午後八時から電燈艦飾点灯を実施しました。日中、大勢の見学者が港に來られ、各艦艇を案内者の説明によりじっくりと見学をしていました。



日南市 掃海艇なおしま



宮崎市 練習艦せとゆき やまゆき



串間市 掃海艇あおしま

来艦された方からは、「乗員の生活は大変でしろうが勤務に励んでください。」と声をかけられていました。串間市においては、花火大会会場の岸壁に横付けした掃海艇と、夜空に大きく開く花火との絶妙なコラボレーションに市民は大変喜んでいました。また、「なおしま」乗員は細島港祭に招かれ神輿を担ぐなど地域の方々との親睦を深め「祭りに参加し心に残る思い出ができました。掃海訓練での入港が楽しみです。入港し上陸したときは、より一層地域の方との親睦を深めていきたい。」と乗員の方は話していました。

### 二十五キロ行進訓練を激励

六月三日(土)第二四普通科連隊自衛官候補生教育隊が実施する二十五キロ徒步行進訓練にあわせて、宮崎県西諸県地区自衛隊協力団体(家族会、隊友会、募集相談員会及び防衛協会)約六五名の協力を得て自衛官候補生等約一九八名に対する激励会を行いました。また熊本、鹿児島からも自衛隊協力団体等約一〇名が激励に駆けつけました。



声援を受け出発する新隊員

激励会において、自衛隊協力団体代表として自衛隊家族会高原地区会長(清水公雄氏)が「前期教育の中で一番厳しい訓練になると思いますが、同期と励まし合いながら、無事完歩して下さい。」と激励の言葉を贈られ、参加した自衛隊協力団体の各代表者から慰問品が手渡されました。自衛官候補生を代表して宮崎市出身、根井友彰自衛官候補生が「全員で完歩目指し頑張ります。今日は慰問品ありがとうございました。」と激励の言葉を述べ、参加された自衛隊協力団体の方々から、拍手や声援を受け、霧島演習場に向けての駐屯地を出発しました。



慰問品を受け取る新隊員たち

宮崎県労働局は七月二八日、六月有効求人倍率(季節調整値)は前月比〇・〇四ポイント増の一・四三倍で四ヵ月連続で過去最高を更新したと発表した。募集環境は更に厳しさを増すことになる。このような厳しい状況で自衛官募集を実施するには、何か新しい取り組みや新たな考え方でアプローチしていく必要がある。

### たまゆら

そこで、自衛官を募集することが自衛隊のためだけでなく「宮崎県にとって役立たないか?」「若者にとってメリットはないか?」という視点で考えてみた。現在、宮崎県では、若者の県外流出及び離職率が高いことが大きな問題となっている。その中でも卒業後三年以内の離職率が四三・九%(平成二五年三月)で全国平均四〇・九%と比べて高い状況にある。これは深刻な問題だ。県は職場定着のため高校生や保護者に対し県内企業を理解してもらおう施策は充実させているものの、高校生が社会へ出て何事もやり抜く力をつけさせる施策については十分とはいえない。

「自衛官候補生」という自衛官採用制度は、若者を育てる場でもある。その採用制度を「職業訓練学校」のように捉え活用すれば、離職率が低減する可能性があるのではないだろうか。自衛官候補生として採用されると、自衛官候補生教育終了後は任期制隊員となり、任期満了時には特別退職手当が支給(陸自・一任期中で約五六万円、二任期中で約一四二万円、海空自・一任期中で約九三万円、二任期中で約一四八万円)される。

各種資格も取得でき、任期満了時には自衛隊勤務継続と地元企業等への就職との選択が可能であり、地元企業等へ再就職する場合は、宮崎地本が就職支援をしっかりと行っている(希望者に対する再就職率一〇〇%)。何より、自衛隊の勤務を通じ培われる遵法精神、強い責任感、忍耐力、実行力と協調心、強靱な体力と技術の素養などは民間企業に就職しても非常に役立ち、それらの力が備わっているからこそ離職率低減が図れる可能性がある。

自衛隊で鍛えられた若者が宮崎県に戻ってくることは、宮崎県や地元企業にとって大いにプラスである。また、自衛官候補生として入隊することで得られる資格の取得、心身の鍛錬、特別退職手当の受領、再就職の支援など若者にとっても大いにメリットがある。これらのことをしっかりと発信して、自衛官募集に寄与するだけでなく宮崎県の抱える問題を解決し、宮崎県の発展に貢献していきたい。



# 4協力団体が総会を開催

## 宮崎県募集相談員会



六月一七日、宮崎市内のホテルにおいて、宮崎自衛官募集相談員との募集連絡会議を実施するとともに同会の定期総会を支援しました。

募集連絡会議において、本部長が「厳しい募集環境のなか、特に自衛官候補生の確保に苦戦しており、募集相談員からの情報が極めて重要であり、更なる連携を図り、入隊者を確保していききたい。」と挨拶した後、宮崎地本が実施している自衛官募集業務、就職支援業務、予備自衛官業務、広報渉外の各業務の説明を実施して募集相談員に對してより一層の協力・支援を依頼しました。

その後、募集相談員一七名中六三名が出席した募集

## 宮崎県隊友会



六月一八日、宮崎市内のホテルにおいて平成二九年度宮崎県隊友会定期総会を支援しました。

総会には、二三支部七一名が出席し、国家斉唱、二八年度隊友会物故者二二名への黙禱に続き、会長挨拶、平成二八年度事業報告・決算報告及び平成二九年度事業計画と予算案について整齊と審議が行われ、全会一致で承認されました。

続いて表彰式が行われ、隊友会活動への協力・支援に功績のあった方々三名（隊友会本部長表彰四名、県隊友会会長表彰二八名）に対し三浦会長より表彰状が贈呈されました。

休憩後の防衛講話では、本部長が「日本を取り巻く安全保障環境について」と題して講話を実施するとともに「宮崎県における自衛官募集の現況について」を説明し、隊友会員は興味深く聴講していました。

総会終了後に行われた意見交換会では、武井衆議院議員、長峯参議院議員、戸敷宮崎市長、横田県議会議長を始め、県内防衛関係団体の長、県内部隊長等を含む総勢八〇名の方々のご出席のもと盛大に行われ、会員同士の親睦を深めるとともに部隊、地本及び自治体との連携強化を図るなど有意義な総会となりました。



六月一七日、宮崎市内のホテルにおいて、宮崎自衛官募集相談員との募集連絡会議を実施するとともに同会の定期総会を支援しました。

募集連絡会議において、本部長が「厳しい募集環境のなか、特に自衛官候補生の確保に苦戦しており、募集相談員からの情報が極めて重要であり、更なる連携を図り、入隊者を確保していききたい。」と挨拶した後、宮崎地本が実施している自衛官募集業務、就職支援業務、予備自衛官業務、広報渉外の各業務の説明を実施して募集相談員に對してより一層の協力・支援を依頼しました。

その後、募集相談員一七名中六三名が出席した募集



長が「日本を取り巻く安全保障環境について」と題して講話を実施するとともに「宮崎県における自衛官募集の現況について」を説明し、隊友会員は興味深く聴講していました。

総会終了後に行われた意見交換会では、武井衆議院議員、長峯参議院議員、戸敷宮崎市長、横田県議会議長を始め、県内防衛関係団体の長、県内部隊長等を含む総勢八〇名の方々のご出席のもと盛大に行われ、会員同士の親睦を深めるとともに部隊、地本及び自治体との連携強化を図るなど有意義な総会となりました。

## 宮崎県自衛隊家族会



五月十九日、新富町文化会館において開催された平成二九年度宮崎県自衛隊家族会（会長柳田 晃）定期総会を支援しました。

総会には、河野宮崎県知事、揖斐新富町町長、協力諸団体の長、熊谷第五航空団司令を始め、各地区会長及び会員の約一五〇名が出席しました。

始めに、国歌斉唱、物故者に対する黙禱を実施し、柳田会長が式辞を述べ、引き続き来賓を代表して、宮崎県知事、新富町町長及び第五航空団司令の祝辞を頂きました。柳田会長は式辞の中で、「宮崎県自衛隊家族会は全国に二十年先立ち活動を始めた。自衛隊に対する逆境をはね返す子弟の隊員達が誇りをもって勤務に臨み充実した活動ができるよう基盤的な支援組織を今後も構築していく」と述べ、士気高揚を出席者へ呼びかけました。

## 宮崎県防衛協会



五月二三日、新富町文化会館において開催された平成二九年度宮崎県防衛協会定期総会を支援しました。

総会には、会員及び来賓者約一〇〇名が出席しました。

開会の言葉から始まり国家斉唱、物故者に対する黙禱を行った後、宮崎県防衛協会会長である河野宮崎県知事が公務のため総会を欠席されたので、協会副会長、村岡えびの市長が挨拶を行いました。

その後、会活動への協力・支援に功績のあった支部・個人に対し会長表彰を行いました。

また六月二八日には、宮崎県防衛協会女性部会（会長 山西三重子）総会が会員及び来賓者約一二〇人が参加のもと航空自衛隊新田原基地において開催されました。

総会審議のほか新田原基地司令の講話や会食懇談会が行われ、参加者同士の親睦を図る絶好の機会になりました。

## 九州三天まつり「延岡大師まつり」を支援

四月一六日（日）延岡主張所は、九州三天まつりのひとつである延岡大師まつりの市中パレードを支援しました。

市中パレードは四二団体一七四〇人が参加しました。今年はお大師さんの銅像が還暦を迎えることもあり多くの観衆で賑わいました。

先頭のパジェロには延岡商工会議所会頭が乗車され二両目には陸上自衛隊のマスコット「マモルくん」が乗車し広報活動を行いました。

沿道に集まった観衆に向かい延岡出張所長が「名前はマモルくん、よろしく」紹介すると「マモルくんかっこいい」「自衛隊頑張れ」「制服がかっこいい」など多くの声が掛けられました。

また、後方を行進していた団体に参加していた宮崎県募集相談員会の木村隆次延岡支部長は、広報グッズを配布しながら自衛官募集を呼び掛けていました。

自衛隊の部隊、施設のない県北地域におけるパレードは、自衛隊を広報する絶好の機会となりました。





# 私が臨時勤務を通して学んだこと

第三航空団基地業務群 空士長 稲村 凌花

私が今回の宮崎地方協力本部日向地域事務所での臨時勤務を通して学んだことは二つあります。それは「広報官の大切さ」と「協力団体の存在」です。



門川高校での説明会の様子

私が想像していた広報官の仕事というのは地域の高校に自衛隊の仕事を紹介し、入隊者を増やすという簡単な認識でした。

しかし、実際に勤務してみると、学校の説明会ひとつとっても、明るい表情で和やかな雰囲気を感じ、生徒たちの緊張をほぐして質問しやすくするとともに、欠席した生徒には先生方へお願いしてパンフレットを渡してもらおう等、一人でも多く自衛隊の良さを知ってもらえるように様々な工夫をされていました。

また高校生だけではなく、一般の方々にも自衛隊の仕事を知ってもらおうと地域の行事に積極的に参加し、入港する輸送艦などを見学して楽しんでもらえるような活動をしていました。

想像していたよりもたくさんの仕事量に驚くと同時に、広報官という存在が一般の人と自衛隊をつなぐかけ橋だということを知り、そのお手伝いをさせて頂けたことはとても良い経験になりました。次に臨時勤務で初めて協力団体の活動が大切だと学

びました。広報官だけでは地域の一人一人に声をかけて回ることができませんが協力団体の皆様のおかげで、臨時勤務に来なければ知ることのできなかった協力団体という存在が自衛隊の活動を後押ししていることも学ぶことができ、感謝を忘れてはいけません。また達成できたことがあります。

私は県外の基地に所属するため、普段なかなか家族に孝行することができませんでしたが、勤務期間中は家族と過ごすことができ、十分親孝行をすることができました。

臨時勤務では数多くの経験をさせてもらい部隊では経験できないことを学ばせてもらいました。今回の経験を無駄にせず、自分の成長の糧にして、これからも家族や友人、同期、職場の方々、そして国民の期待に応えられるように一層仕事に精進しようと感じました。お世話になった皆様、ありがとうございました。



和やかに説明を行う稲村士長

# 臨時勤務者が活躍中!

新田原分駐所 都城地域事務所

新田原分駐所に臨時勤務している航空自衛隊第三補給処藤井麻衣空士長は、出身校はもとより周辺地域の高等学校において「平和を仕事にする」自衛隊の魅力を示すことなく発信しました。

特に母校である高鍋高等学校において、PTA主催の職業講座(わくわく講座)に講師として招かれ、一年生約二六〇人のうち自衛隊に興味を示している四二名に対して、仕事を志す理由ややりがい、航空自衛隊の職種について説明しました。

自衛官を目指した理由を「東日本大震災で自衛隊が活躍する姿を見て、私も誰かの力になれる仕事があったらいいな」と振り返り、また「やりがいについて「補給員として部隊運用に即応した物的後方支援によって自衛隊の任務が遂行されている。表舞台に登場することは無いが自分もその一翼を担っており誇れる仕事である」と力説し、生徒たちに仕事に対する自分の役割と情熱を熱心に話をしていました。



藤井士長がはつらつと学生へ説明



高校生へ想いを伝える梅本1士

説明会に参加した梅本一士は「私の話を聞いた生徒が自衛隊に少しでも興味を持ってもらえるように話をしました。また自衛隊の入隊者が年々減ってきているので、今進路に迷っている人がいれば是非入隊してほしい。」と一人でも多くの自衛官が誕生するよう意気込んでいた。

## 日南において公安系合同企業説明会を初開催

七月二十九日、日南テクノセンターにおいて「陸海空自衛隊・警察・海上保安庁 合同職業説明会」を主催し、自衛官募集を広報しました。宮崎県内で初めての開催となる公安系職種の合同職業説明会に、高校生と保護者等が参加、三機関がそれぞれのブースを設け仕事の内容や魅力を紹介しました。



質問に答える日南所員

なかつた。今回の開催を通じ、今後も多くの人に自衛隊をはじめ公安系の職を知ってもらう機会を関係機関と連携し宮崎県内各地に広げていきたい。」とやる気をみせていました。

## 任期制隊員合同企業説明会を開催



多数の隊員が参加し開催

七月一三日、宮崎市のJ・A・AZMホールにおいて、一般財団法人自衛隊援護協会福岡支部との共催による平成二九年第一回任期制隊員合同企業説明会を実施しました。県内から、システムエンジニア、経理、医療事務、電気、機械オペレーターなど隊員の希望に沿った職種の企業四六社と陸及び空の隊員五五名が参加しました。

よる実施要領の説明を受けた後、午前及び午後の二回にわたり希望する企業のブースで仕事内容や処遇、必要とされる資格等の説明に熱心に耳を傾けるとともに自己PRに努めていました。企業においても自衛隊で身につけた規律や経験及び協調性は魅力的な人材として高く評価しており、企業からも面談したい隊員を逆指名するなど、終始、活気あふれる説明会となりました。また今回は、高等学校関係者や県教育長、県雇用対策担当者、地元新聞記者を招いて任期制隊員の再就職の援助に関する制度説明を実施し、若くして退職する隊員への就職援助について理解を深めてもらうとともに自衛官候補生募集への協力依頼も合わせて行いました。



# 人事往来

## 【転出者】

熊本病院へ  
陸曹長 小原 修三  
(総務課)  
八月一日付

## 【転入者】

募集課長  
三等陸佐 豊田 浩之  
(富士学校)



地域援護センター兼  
えびの援護センター長  
(援護幹部)  
三等陸佐 井上 英俊  
(西部方面航空隊)



日向地域事務所長  
一等陸尉 中尾 智仁  
(第二五旅団司令部)



延岡出張所(広報員)  
准陸尉 城戸 孝栄  
(第四三普通科連隊)



総務課(先任陸曹)  
陸曹長 橋口 修一郎  
(第二四普通科連隊)



援護課(予備自衛官係)  
陸曹長 犬童 光一  
(第五地对艦ミサイル連隊)



総務課(会計係)  
一等陸曹 甲斐 誠司  
(西部方面会計隊)



都城援護センター(援護係)  
一等陸曹 中別府 民雄  
(第四三普通科連隊)



【部内移動】  
延岡出張所へ  
一等陸曹 安田 敦  
(宮崎募集案内所)

宮崎募集案内所へ  
一等陸曹 押川 修  
(本部 募集課)

本部 募集課へ  
一等陸曹 壹岐 早穂里  
(本部 広報渉外室)

本部広報渉外室へ  
一等海曹 植田 謙二  
(日向地域事務所)

宮崎地方協力本部付  
二等陸佐 池田 善和  
(本部 募集課長)

宮崎地方協力本部付  
三等陸佐 鶴野 晃  
(本部 援護センター長)

二等陸尉 平部 雄  
(本部 予備自係長)

八月一日付

## 昇任者紹介

准陸尉 宮川 健司  
(都城 援護センター)  
八月一五日付

行(二)4へ 廣谷 享典  
(広報渉外室)

陸曹長へ 川越 利明  
(広報渉外室)

一等陸曹へ 二輪 隆宏  
(日南地域事務所)

一等空曹へ 小玉 実  
(日向地域事務所)

新田原分駐所  
空士長 藤井 麻衣  
(第三補給処保管部)

日南地域事務所  
空士長 河野 智  
(第一二高射隊)

宮崎募集案内所  
一等陸士 湯地 杏瑚  
(第五地对艦ミサイル連隊)

日向地域事務所  
空士長 稲村 凌花  
(第三航空団基地業務群)

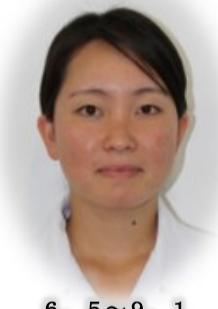
6.1~6.30



小林地域事務所  
一等空士 梅本 浩大  
(第五航空団整備補給群)



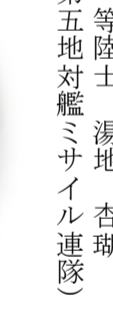
延岡出張所  
一等海士 甲斐 小浪  
(第一整備補給隊)



日向地域事務所  
空士長 藤村 宏一  
(七月二六日付)



宮崎募集案内所  
一等陸士 湯地 杏瑚  
(第五地对艦ミサイル連隊)



7.1~8.31

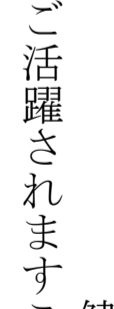
都城地域事務所  
陸士長 藤村 美季  
(第一〇二高射直接支援大隊)



日向地域事務所  
海士長 石黒 敬大  
(護衛艦 いせ)



日向地域事務所  
空士長 藤村 宏一  
(七月二六日付)



宮崎募集案内所  
一等陸士 湯地 杏瑚  
(第五地对艦ミサイル連隊)



8.1~8.31

# 定年退官 おめでとう ございます

## 【都城地域事務所】

二等陸尉 藤村 宏一  
(七月二六日付)

永年にわたる自衛隊勤務  
本当にお疲れ様でした。  
健康に留意され  
ご活躍されますことを祈念いたします。



臨時勤務中の藤村士長(三女)より  
花束が手渡されました